

何時いつからか、痛みには慣れていた。

けどそれは、強くなったんじゃないくて、ただ痛み鈍感鈍感になっていただけ。

殴なぐられれば痛いし、身体からだを凶器凶器で貫つらぬかれれば、もつと痛い。

「痛いんだろうな」と想像はしてたし、実際、すごく痛かった。

それでもやらなきゃと思っただ。思った時には身体が動いていた。

あたしはゾイド乗りで、生身では戦えないはずなのに、その時のあたしには出来たか

ら。それがあたしが『あの世界』に呼ばれた理由だと判ったから。

だから、小さな女の子になって戦っている〈狂襲姫キョウシュユウキ〉を護って、痛い思いをするのは仕方ないんだと思う。

それがあたしの贖罪しよくざいだから。

それだけの事をやってきた。

それを、ただ救われて終わりに出来るはずがない。

因果応報。

罪には罰を。

そんな言葉があつたはずだから。

これは——あたしが犯した罪の記録。

そして、〈狂襲姫キョウシュユウキ〉と呼ばれたゾイドと、その搭乗者の物語。

イントロダクション 〈了〉